

平成18年10月27日

第110回光応用・視覚技術委員会議事録

光応用・視覚技術委員会
委員長 高橋 信一

・日時：平成18年7月24日(月) 14:00～17:00

・場所：日本交通協会第1会議室

・出席者：高橋委員長、堀内、綱脇 各委員
篠田、本田 各幹事

・配布資料

- No.110-01 第109回光応用・視覚技術委員会議事録(案)
- No.110-02 第67回基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会議事録
- No.110-03 第68回基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会議事録
- No.110-04 平成19年電気学会全国大会 シンポジウム取決め
- No.110-05 メディアデバイス・視覚システム調査専門委員会解散報告書
- No.110-06 平成18年度 研究会活動補助金計算書
- No.110-07 光応用・視覚 計測 合同研究会(開催案内)
- No.110-08 第5回リソグラフィ先端技術調査専門委員会議事録
- No.110-09 第2回安全・安心のための赤外線技術調査専門委員会議事録(案)
- No.110-10 光応用・視覚技術委員会名簿
- No.110-11 光応用・視覚技術委員会 平成18年活動予定/平成19年度活動予定
- No.110-12 光応用・視覚技術委員会活動方針

・議事

1. 前回議事録の確認

配布資料 No.110-01 に基づき、篠田幹事より前回議事録が読み上げられ、承認された。

2. 報告および審議事項

2.1 A部門調査研究運営委員会報告

高橋委員長より配布資料 No.110-03 に基づき、第68回 A部門調査研究運営委員会の報告及び連絡事項について、以下が報告された。

- 1) 井上(喜)副委員長(ジェイ・パワーシステムズ)が退任、一号委員となる一方、後任に武藤氏(三菱電機)が就任したことが報告された。
- 2) 総務会議において、創立120周年、125周年記念事業の具体的な事業内容について今後議論がなされることが報告された。
- 3) A部門活動資金について、全体の申請状況についての報告があり、活動資金報告がなされていないものは速やかな報告書提出要請があったことが報告された。
- 4) 調査専門委員会の解散・新設に関して、調査報告の形は技術報告書だけでなく、フレキシブルな形とすべきであり、今後内規を検討することが報告された。

- 5) 寄付金の有効活用について議論され、それらの意見は運営委員会の意見として、総務会議に持ち上げる予定であることが報告された。
 - 6) A 部門大会委員会において、日韓合同セッションを計画中であることが報告された。次回 A 部門大会は 8 月 27 日及び 28 日の 2 日間、大阪大学コンベンションセンターにて開催される予定であり、既にプログラムが完成したことが報告された。
 - 7) 技術報告書のカラー印刷提案がなされ、カラー印刷が必要な図表をまとめて 2 ページ以内とすることを条件に承認されたことが報告された。
 - 8) A 部門表彰の候補者として、坂倉 1 号委員を推薦したことが報告された。
 - 9) 会計会議報告において、平成 17 年度 A 部門は 68 万円の黒字であるが、技術報告書単独では赤字であることが報告された。
 - 10) 英文論文誌編修委員会において、A 部門誌の Editorial Advisory Board 海外委員として綱脇 2 号委員から推薦のあった二名の方を推薦したことが報告された。
 - 11) 平成 18 年 2 月 28 日に経団連ホールにおいて公開シンポジウム「若者に電気の夢を」が開催されたことが報告された。
 - 12) 現行の電気学会著作権規定取扱いに関して、平成 17 年度第 4 回研究経営会議（平成 18 年 2 月 9 日）にて、前田運営委員長から A 部門の意見として研究会資料の著作権に関するよりフレキシブルな適用が要請された。その結果、検討 WG の見解として、全くのコピーでない場合に限り、他学会への投稿を許可する方向で検討中であることが報告された。
 - 13) 技術報告書の間接費は 2005 年度で約 20,800 千円であり、出版販売課全体の間接費の約 40%を占めていること、損益分岐部数は 208 部となることから、利益確保の観点から今後は最低 400 部の発行が前提となるべきであることが報告された。また、平成 18 年研究会においては資料予約者が減少傾向であることが報告された。
 - 14) 誘電・絶縁材料関連に関する学会がアジア周辺国に多く、できるだけ統一したい旨の議論があり、その一環で韓国の KIEE より日中韓合同の国際会議開催の提案があり、検討中であることが報告された。
 - 15) マイクロ磁気ドライブ技術調査専門委員会解散報告書
調査報告としては技術報告書が基本であるが、赤字解消の目的もあり、今後は出版だけでなく、販売促進の他、技術委員会レベルでの講習会企画と運営などを盛り込んだ方向で内規化を検討中であることが報告された。
- 2.2 平成 19 年電気学会全国大会シンポジウムの企画について
高橋委員長より配布資料 No.110-04 に基づき、シンポジウムの講演と討論の合計は、1 課題につき 3 時間とすること、内容は現状の技術解説および将来展望を主とし、部門を越えた広範囲で 50 名以上の聴講者を集められるような内容であるべきこと、現在、マグネティックス、放電、誘電・絶縁材料の各技術委員会からの講演が候補であり、光応用・視覚技術委員会からは候補なしで報告する予定であることが報告された。
- 2.3 調査専門委員会の解散報告
高橋委員長より配布資料 No.110-05 に基づき、以下が報告された。
- 1) メディアデバイス・視覚システム調査専門委員会解散報告書
調査報告書のタイトルを「メディアデバイス視覚応用技術」から、より一般者にわか

りやすいタイトルとして「高齢者にやさしい視覚メディア技術」に変更されたことが報告された。

2) 光応用・視覚技術委員会活動方針として、配布資料 No.110-12 に添付のカラー印刷版を再提出したが、上機関より当該活動方針見直し要請があり、現在見直しについてメール審議中であることが報告された。

2.4 平成 18 年度研究会活動補助金の報告

篠田幹事より配布資料 No.110-06 に基づき、平成 18 年度研究会補助金計算書の内容が説明され、光応用・視覚技術委員会に 10,000 円が交付されたことが報告された。

2.5 光応用・視覚、計測技術委員会・合同研究会開催について

篠田幹事より、配布資料 No.110-07 に基づき、光応用・視覚技術委員会と計測技術委員会の合同研究会開催についての紹介があり、平成 18 年 9 月 8 日工学院大学新宿キャンパスでの開催、各技術委員会から各 2 件、合計 4 件の発表が予定されていることが報告された。

2.6 見学会について

篠田幹事より、平成 18 年 9 月 7 日に産総研の見学会を開催予定であり、神野委員および岡田委員経由で先方と調整中であることが報告された。

2.7 調査専門委員会の活動報告

1) リソグラフィ先端技術調査専門委員会

堀内委員より配布資料 No.110-08 に基づき、第 5 回委員会の議事録が報告され、2006 年 2 月に米国 San Jose で開催された SPIE の概要が報告された。

2) 安全・安心のための赤外線技術調査専門委員会

網脇委員より配布資料 No.110-09 に基づき、第 2 回委員会の議事録が報告された。

2.8 平成 18 年度、19 年度の活動計画について

配布資料 No.110-10 に基づき、各調査専門委員会の活動日程の確認を行った。高橋委員長より、メディアデバイス・視覚システム調査専門委員会(山羽委員長)の次回研究会を 11 月開催で検討中であることが報告された。堀内委員より、リソグラフィ先端技術調査専門委員会では 9 月 15 日に委員会を追加開催する予定であることが報告された。網脇委員より、10 月開催予定の安心・安心のための赤外線技術調査専門委員会委員会は 9 月 7 日に変更されたことが報告された。

2.9 次回委員会について

日時：平成 18 年 10 月 27 日(金) 14:00 ~ 17:00

場所：日本交通協会第 1 会議室

以上